

関係各位

愛知県農業総合試験場長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について(送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記
令和6年度病害虫発生予報第10号(1月)
令和6年度病害虫発生予察特殊報第3号

担当 環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-41-9513
ファックス 0561-63-7820

令和6年度病害虫発生予報第10号(1月)

令和6年12月26日
愛知県

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	コナガ	やや少ない	県全域	12月下旬の発生量はやや少ない	—
トマト (施設)	疫病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	葉かび病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
ナス (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
キュウリ (施設)	べと病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	うどんこ病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
イチゴ (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	うどんこ病	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	平年並	県全域	12月下旬の発生量は平年並	±

・留意事項

トマトでは、12月上旬の巡回調査でコナジラミ類の発生量が過去10年で最も多く、また、トマト黄化葉巻病（タバココナジラミが病原ウイルス（TYLCV）を媒介）の12月下旬の発病株率も過去10年で最も高い状況です。黄色粘着板や黄色粘着テープを施設内に設置してタバココナジラミ成虫を捕殺するとともに、薬剤防除しましょう。薬剤防除は同系統の薬剤を連続して使用するのとは避け、気門封鎖剤も活用しましょう。発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り適切に処分しましょう。詳細は、11月1日発表の「令和6年度病害虫発生予察注意報第11号」を参照してください。また、コナジラミ類はトマト黄化病の病原ウイルス（ToCV）を媒介するので、同様に防除を徹底しましょう。

ナス、イチゴで灰色かび病が発生しているほ場があります。被害果や被害葉等は伝染源となるので、見つけ次第ほ場外に持ち出し、適切に処分しましょう。暖房機の稼働時間が短くなる等により施設内が多湿になると発病が多くなるので、注意しましょう。

イチゴでは、ハダニ類の発生量は平年並ですが、春先、気温が高くなると多発しやすくなります。多発すると防除が難しくなるので、ハダニ類を見つけた場合は早めに防除しましょう。農薬は訪花昆虫や天敵への影響も考えて選定しましょう。

作物

・留意事項

水田における7月下旬の巡回調査において、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の発生ほ場率が過去10年間で最も高い状況でした。スクミリンゴガイは水田や水路の土中に潜って越冬します。ほ場の土壌が乾燥して硬い厳寒期（1～2月）に耕うんを行い、貝を物理的に破碎するとともに寒風にさらすことで、越冬量を減らすことができます。スクミリンゴガイが発生しているほ場では、越冬量を減らすために冬期耕うんを行いましょう。詳細は、11月18日発表の「スクミリンゴガイ情報第2号（水稻）」を参照してください。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/yougo.html>）を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方气象台12月26日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い : 50% 平年並 : 40% 高い : 10%

〔降水量〕 少ない : 50% 平年並 : 30% 多い : 20%

〔日照時間〕 多い : 20% 平年並 : 30% 多い : 50%